

## 令和7年度まちづくり懇談会内容

日時：令和7年11月25日（火） 18：00～

場所：宮田集会所

出席者：9人

- 1.開会
- 2.町長説明
- 3.懇談
- 4.閉会

### 【懇談・そのほか質疑など】

■高規格道路	
町民	高規格道路のインターチェンジは、どこにできるのか。
副町長	小樽開発建設部が令和7年5月に説明を行った際には、道の駅付近にできるイメージで話がされた。
町民	道路は、国道に対してどちら側にできるのか。
町長	国道に対して蘭越を見て左側で、新幹線トンネルを真狩村側には超えない。具体的な協議がこれから始まり、完成時期などは未定である。

■高規格道路	
町民	完成した箇所から通行できるようにはならないのか。
副町長	開通する条件などがある。

■役場庁舎駐車場	
町民	役場庁舎の駐車場が狭い。
副町長	役場の向かい側、現在、新しく消防庁舎を建設している場所が駐車場になる。20台以上駐車できる予定だ。

■消防庁舎	
町民	現在の消防庁舎のあとは、何になるのか。
副町長	まだ決まっていない。耐震上、人が集まる施設としては活用できないが、倉庫としては活用できる。何かいい案はないか。
町長	今後町バスの導入を検討している。手直しが必要かもしれないが、例えばバスの車庫として利用できるのではないかと考えている。

■ニセコ高校の国際化	
町民	KIUがあるのに、ニセコ高校を国際化する必要はあるのか。
教育長	KIUもHISも各種学校という扱いの学校となる。そのため、高校受験や大学受験ができない。KIUやHISは英語ベースで授業が行われ、月謝や学校規模の関係からも入学することが難しい場合もある。公立の学校で、地元の子どもたちが通える学校としてニセコ高校が使命を果たしている。

■スケートボードパーク	
町民	宮田小学校の体育館をスケートボードパークとしての利用するのは、いつまでか。
副町長	最初は期限を設けて試験的にやっていたが、小学校内にある後志中部農業開発事業所からも問題ないという話を受け、貸し出しをしている。
町民	利用者は、町外からも来ているのか。
副町長	町内の人が発起人となり、1回の利用料を決めてやっている。オリンピック種目にもなっており、町外からもそれなりに来ているようだ。
町長	都市では、公園にコンクリートで整備され、子どもたちにもなじみがあるようだが、そこまで整備できる力がないと代表の方へ話をした。宮田小学校のスケートボードの利用は、月に200~300人で、想像以上の利用があると聞いて驚いた。実証的に宮田小学校の体育館を利用しているため、照明やトイレなど問題もあるようだ。
町民	遊休地を貸すと言ったが、断られた。それなのに結局宮田でやっている。都市部には大きい公園が整備されている。ニセコ町は遅れている。地元の人が協力すると言っているのに壁があるし、町に貢献しようと思っているのに意味がない。
副町長	当初から、子どもが車に乗らなくても行ける場所を検討してきた。場所ができるまで、宮田小学校を利用している。コンクリートの場所でもできることが理想だが、小さい町ではすぐに整備することは難しい。屋根があるところでできる良さもあって、心地よくやっていると話していた。
町長	利用者が、全天候型で利用できる施設としては、ニセコ町が道内一の大きさで、恩恵を受けていると話していた。先日新幹線工事の見学に行ったときに、コンクリートが余っていないかと話してきた。コンクリートが高いので、使用して施設を作るというのは力が及ばない。
町民	新幹線工事のヤードは利用できないのか。6反くらいある。
町長	いいヒントになるかもしれない。

■橋に記載してある高さ制限	
町民	小花井地区にある橋に、高さ制限が4m20cmと記載されているが、そこまでの高さが無いように見える。木材などが高く積み上がっている車両が通行しているの、心配になる。
副町長	さすがに間違っていないと思う。

■水資源の訴訟	
町民	水資源に関しての話は、まだできないか。
町長	まだ決まっていない。飲み水は守っていきたい。弁論する余地があると思うので、町の主張が届くよう弁護士とやり取りしている。
町民	出発点がよく分からない。
副町長	テレビで報道されている内容は間違いではない。町では登記のもとに手続きをして購入しているのに、一審では敗訴した。
町長	しかるべきタイミングが来たら、説明する場を設ける。

■ロードヒーティング	
町民	スキー場に向かう道路、特にミルク工房より上の道路が、滑ってバスが通行できないことがある。ロードヒーティングの整備に、宿泊税を活用することはできないのか。私道だと難しいか。
副町長	宿泊税の用途を検討する話の中で、同じような意見が上がっている。私道についても、工事には宿泊税を充て、維持費は事業者が負担するなどということも検討している。事故や渋滞につながるの、整備は必要である。道路を利用することはあるか。
町民	冬期は、ホテルでアルバイトをしている。塩化カルシウムや砂利をまいてもキリがない。バスが立ち往生し、通行止めになることもある。
町長	検討する。

■道路状況の確認	
町民	中山峠のようにライブカメラを設置すれば、道路状況が確認できるのではないか。スキー場へアルバイトに行っていたが、道路状況によって遅刻する人や事故に遭う人もいた。道路状況は知らせる必要があるのではないか。雇用先では地元の人を頼りにしていると言うが、除雪が入る前では行くこともできないし、そのあたりは考えられているのか。
町長	場所や交通量、管理などの観点からも、カメラの設置は難しいかもしれない。ロードヒーティングを整備することで根本の解決にはなる。

町民	全ての道路にロードヒーティングが必要なわけでない。今の車の性能なら上がれない坂道は無い。
副町長	スキー場に向かう道路では、上がれないという話はよく聞く。
町民	多くは、下りで停まらない車が多い。スポット的に整備すると良い。
町長	場所は見極めていく。

<b>■鳥獣対策の補助</b>	
町民	シカやアライグマによる農作物の被害が多い。町の補助金で、電気牧柵を購入した。今後も補助制度を継続してほしい。現在は、各自購入し、自分の圃場に設置している。耕作者が協力し合って設置するほうが効率良いが、それは補助対象になるか。手間も管理も大変である。
農政課長	現状では、そのような補助金の活用方法は想定されておらず、個々で申請していただく形となっている。上限額を20万円としているので、広域で設置するには少額である。
副町長	隣と一緒に申請して、上限額を40万円にできるか、ということか。
町民	2件で申請して設置すると、圃場の中間仕切りが不要になるので効率が良い。個人で想定しているならば、個人で圃場を周回していなければいけないのか。
農政課長	補助制度上、圃場を囲わなければならない、という設定はしていない。

<b>■アライグマ</b>	
町民	アライグマは年間でどのくらい捕獲しているのか。
農政課長	300~400匹捕獲、処分している。
町民	自分で埋めているのか。
農政課長	以前は自分で埋めてもらっていた。今は猟友会で処分している。

<b>■生態系調査</b>	
町民	生態系調査はしているか。どこに住んで、どう移動しているかが分かると対策しやすい。研究室と共同でやると進むのではないか。動物にも習性があるのでそれを知ると被害が減らせるのではないか。
農政課長	現在はアンケートで被害調査をしているが、回答率は低い。ある町村においてピンポイントで調査をしたと聞いたことがある。きちんと調査できれば被害は減らせると思う。

■役場職員	
町民	知らない役場職員が多く、話すことはない。
町長	自分自身を含め、町外の職員が多い。まちの歴史を教えてもらうなど、どうしたら交流できるか考えている。
副町長	宮田地区では盆踊りが残っている。地域の人は大変だが、継続していることはとてもありがたい。地元に戻ってきた人も参加しているし、新しい人も入りやすいコミュニティがある。国際交流員も喜んで参加している。
町長	役場の中だけが仕事ではなく、現場に足を運ぶよう、職員に働きかけていきたい。

■物価高騰対策	
町民	国でお米券を配布するニュースが出ていたが、ニセコ町は何をやるのか。
副町長	まだ、ニュースベースでしか事業詳細が分かっていない。
町長	昨年は給食費の無償化に充てた。規模や内容などさまざまな切り口で総合的に見て、判断する。